中勢道路　調査ニュース　No.59　2013. 10

Chusei News Letter No.59, Archaeological Properties Center of Mie Prefecture

三重県埋蔵文化財センター
〒515-0325 多気郡明和町竹川503
TEL 0596(52)1732　FAX 0596(52)7035
E-mail:maibun@pref.mie.jp
http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/

中勢道路埋蔵文化財発掘調査整理所
〒515-2316 松阪市嬉野川北町471
TEL 0598(42)7960　FAX 0598(42)7961

～森ヶ坪遺跡現地説明会資料～

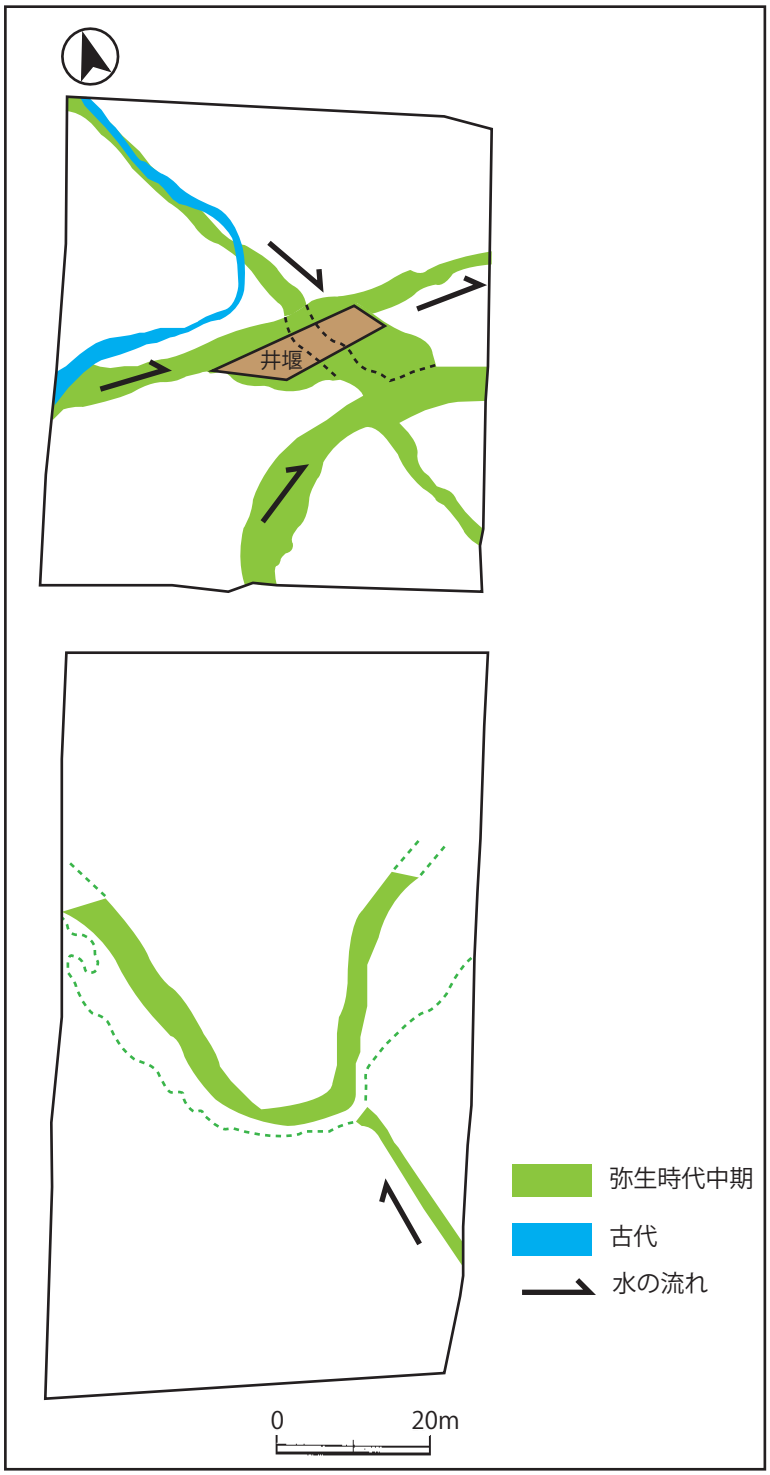
森ヶ坪遺跡は、中ノ川の南岸に広がる遺跡です。

今回の発掘調査は、一般国道 23 号中勢道路建設に伴うもので、弥生時代中期（約 2,000 年前）と飛鳥時代（約 1,400 年前）の遺構と遺物が見つかりました。このうち、北側の調査区では、弥生時代中期の流路から長さ 12m、幅６ｍにわたって、千本近い杭を緊密に打ち込んだ井堰(いぜき)が発見されました。西から流れてきた流路と、北西から流れてきた流路が南東側へ流れるのを堰き止め、東側へ導水したと思われます。井堰を構成する杭には、樹皮の残る丸杭（自然木の先端を尖らせた杭）のほか、板材などを杭に再加工した転用杭があり、いずれも地山となる粘土層にしっかりと打ち込まれています。そして、これら杭材の要所は、横木や縦木で縦横に補強されており、縦材の中には先端を二股に加工し、それを杭留めしている事例も確認できました。井堰や流路からは、弥生時代中期の土器のほか、漆を塗った弓やヒョウタンなども出土しました。

南側の調査区では、弥生時代中期のものとみられる蛇行する水路と、そこに流れ込む幅１ｍほどの溝が発見されました。遺物はわずかですが、弥生土器のほか建築部材とみられる角材が出土しています。

井堰関連の遺構は、三重県内では津市蔵田(ぞうた)遺跡で弥生時代後期(約 1,800 年前)、松阪市片部(かたべ)遺跡で古墳時代初頭(約 1,700 年前)のものなどが発見されていますが、弥生時代中期に遡るものは今回が初めてです。まだ鉄製の道具類があまり普及していなかった時代に、これほどの大規模な工事を行っていた弥生人に驚きです。

遺跡位置図



遺構配置図

弥生時代の弓

井堰に用いられた杭

ヒョウタン

打製石器

流路出土の弥生土器

発掘調査風景（東から）

井堰に用いられた縦木。先端の二股を杭で留める。

井堰を北西側からみる